



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	<資料紹介> 韓国農場視察報告および明治四十三年度水稲試作成績
Author(s)	田中, 慎一; TANAKA, Shin'ichi
Citation	經濟學研究, 53(2), 87-94
Issue Date	2003-09-09
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/6015
Type	departmental bulletin paper
File Information	53(2)_p87-94.pdf



<資料紹介>

韓国農場視察報告および明治四十三年度水稻試作成績

田 中 愼 一

ここに資料として紹介しようとするのは、「韓国農場視察報告」¹⁾ および「明治四十三年度水稻試作成績」という、それぞれの標題で、明治後期（明治末期に近い）の西日本の一地方新聞に、いずれも4回にわたり掲載されたものである。明治40年代の新聞記事にすぎないとみなしてしまえばそれまでであろうが、いずれも、組合形態をとった一つの固有の対韓植民経営組織である韓国農業奨励組合なるものにかかわる報告書のたぐいであり、比較的短いもののせいか小冊子としても刊行されることはなく、往時の地方紙の片隅に存在するだけで、現在では検索することすら容易でなく、そもそも、いささか史料的価値が見出されるものと判断したので紹介に及ぶわけである。

これら二つのうち、まず前者の「韓国農場視察報告」であるが、これは『山陽新報』という岡山中心の地方新聞に1908（明治41）年10月

25日、26日、27日、28日、の4日間にわたって連載された²⁾。その7カ月前の1908年3月11日に岡山県民有志を組合員として設立されていた韓国農業奨励組合、この組合が韓国は京釜線密陽停車場前に現地の韓国事業所をひらいたのは同年5月8日であり、それはまだ仮事務所だったから、正式な事務所が新築落成した10月の12日に開所式を迎えることになり、これに出席するため本国（岡山県）から藤原理事長・水田理事・高見幹事の3名が10月4日に岡山を出発し渡韓の途についていたのだった。

したがって、この標題にいう「韓国農場」とは韓国農業奨励組合がいち早く韓国で買収していた所有地であり、すでに着手しつつあった組合の農業経営地のことであり、「視察報告」とは開所式のため渡韓した組合理事長がその間に視察した事柄を帰国後に報告したものとされている。10月23日の新聞報道によれば、「韓国農事奨励組合理事会は来る二十八日午前十時よ

- 1) 新聞に掲げられているこの標題には、ご覧のように黒丸の圏点がルビとしてつけられているが、以下省略する。
- 2) この4回の連載記事を以下資料紹介するに際し、ここであらかじめ凡例のごときものを簡条書き的に註記しておく。(1)2回目から4回目までの標題には「韓国農場視察報告（承前）」とあるが、すべて省略する。(2)1回目から3回目までの新聞記事の末尾には（未完）とあるが、すべて省略する。(3)1回目の標題のあとに続けて「過般韓国農事奨励組合農場視察として出張したる理事長の報告書は左の如し」とあるが、ご覧のようにこれは新聞社側が書いたものなので、この部分は省略する。(4)漢字は旧字体を新字体に改めたところがある。例えば、洲→州、假→仮、のごとくに。(5)判読不能な箇所が若干あった。

その文字のところには□を置いて示した。(6)新聞記事では段落の冒頭が一マスあけとなっていないが、それでは段落がわかりづらいので通例のごとく一マスあけておいた。(7)この報告書には節ないし項のような8つの小見出しがあるが、それらに通し番号をつけた方が便宜的と判断したのでそうしてある。しかし、これらの番号は原文にないものなので〔 〕で表示した。(8)報告書の前文にあたる最初の部分と、総括にあたる最後の部分には特に小見出しはつけられていないが、この両者とこれらの間にある他の部分とを明瞭に区別するために、前者に「まえがき」、後者に「小括」という小見出しを挿入することにした。ただし、これらは原文にないものなので〔 〕で表示した。

り岡山県庁内に開き理事長より過般視察調査せし件に付報告」³⁾する予定になっていたから、組合の理事会での報告書が事前に地元紙に公表される形をとったものであろう⁴⁾。

かかる報告書の全文が以下の資料Ⅰであり、そこに盛り込まれている対韓認識の諸相はなかなか興味深いものであり、なかには吟味を要するところもいくつかあろうが、ここでは余計な解釈を下すことは差し控える。ただ、この報告書に反映している対韓認識上の問題点のうち、韓国農業奨励組合のその後の事業展開と関係し、しかも重大な影響を及ぼしていったであろう次の一点のみ取り上げるにとどめよう。

韓国を農業水害の多い所と見なし、しかも水害と無縁な農地はむしろ豊度劣等地と低く評価し、そうした水害多発国であるからには、水害の可能性が比較的高い農地ですら買い控えるには及ばず、むしろ土地価格を勘案しながら、場合によっては積極的に買い進むことも良い選択の一つ、との判断を実質的に示しているのではあるまいか。とすれば、これは海外の土地、しかも農業気象に応じて相応の収量が予想されるべき農地への投資に伴うリスクに対する見通しとしては楽観的に過ぎ、問題なしとしない箇所であろう。

次に、もう一つの標題の方であるが、これも同じ『山陽新報』に1910(明治43)年1月13日、14日、15日、16日、の4日間にわたって連載された⁵⁾。しかし、この「明治四十三年度

水稲試作成績」という標題には問題がある。不正確なのであり、さらにむしろ間違った標題といつてよいくらいである。確かに、水稲試作成績なのであるが、それは明治42年の夏作として実施されたものだからである。新聞記事の、まえがきに相当する部分、そのあとの本文、そして新聞の日付を見れば明らかなことである。だから実体は明治42年度(1909年度)水稲試作成績である。にもかかわらず、新聞掲載の標題に明治43年度と入れた理由を強いて想像すれば、次年度の明治43年度の水稲作への重要な参考になるであろう前年度実施の水稲試作成績を標準的なものとして示すという含意が込められているのかもしれない。そのような意向があったればこそ、内容と一年づれていることが明白な間違った年度をあえて標題に入れたのであろう。が、これはあくまで形式上の難点にすぎないわけである。

対韓移住農業の基幹作物が無論水稲であるのは至極当然の事態であるにしても、隣国とはいえ海外の異土であるからには、栽培管理や施肥と肥効などの労働対象技術はその風土に順応したものでなければならず、また水稲品種の選択が問題になっていたのである。そのため日本稲品種と韓国在来品種との栽培比較も必要とされた。そのばあい韓国稲品種も、先験的に否定されているわけではなく、あくまで実際の栽培結果という現実が尊重されている。韓国農業奨励組合という名も知れぬ一小组織が第2年度早々に行なった水稲試作成績の報告書(資料Ⅱ)には、こうした事情が反映されていることを以下に如実に見ることが出来るのである。

3) 『山陽新報』1908年10月23日「韓国農事奨励組合」

4) 新聞には理事長一人による報告書であるかのように報じられているが、組合の代表者ゆえそう書かれた可能性が強い。実際には出張者全員によるものか、もしくは韓国駐在職員の南多平あたりが書いたものか、あるいは以上4名の合作になるのかもしれない。いずれにしても、役員の理事レベルではなく、現地の実状に詳しくなりつつあった職員レベルが実質的に書き、理事レベルは形式的なそれであったろう。

5) 凡例的なものは資料Ⅰについてのそれ(註2))と同様な点は繰り返すことはやめ略し、異なる点のみ箇条書きする。

(1)原文にある振り仮名のうち、残しておいた方が読解の一助になると思われたものは削除せず、そのままのルビとした。

(2)表1から表5といったナンバーならびにそれらのタイトルは筆者(引用者)によるものである。

(3)表のなかの数字で判読しがたい箇所は部分的に□で示したが、その箇所がいくつもあって体をなさないほどのものは——で示した。

資料 I 「韓国農場視察報告」

〔まえがき〕

韓国移住農業を奨励する為め本県農事奨励組合仮事務所を韓国密陽駅前に設置したるは本年五月なりしが今回事務所新築落成し本県組合より理事長理事幹事等事業視察を兼ね出張したる序去る本月十二日々韓両国人を招き開所式を挙行せり将来本県人にして渡韓する者には全組合に於ては密陽を中心とし北は大邱より京城に及び西は馬山鉄道沿線南は三浪津、龜浦、金海地方の適地を実地に調査し移住の根柢を定むるに便益を与ふる方針なり

〔1〕密陽の位置

密陽は慶尚南道の北辺に位し京釜鉄道の沿線にありて釜山を距る三十八哩海拔百二十二尺なり鉄道の便は其北行するもの清道慶山を経て大邱に到り南行するもの三浪津、龜浦を経て釜山に到り西行するもの三浪津を経て支線により馬山に到る密陽は古來郡守の駐在する處にして慶南に於ける物貨集散の市邑で今日本人の在住するもの戸数百六十戸人口六百以上なり密陽川は水玉山（大邱）雲門山の溪流を合せ密陽郡の東辺を過ぎ其東西岸に所謂密陽平野を沖積し東南流して三津に到り洛東江に入る舟楫の便なきも魚族多く殊に鮎は此川の特産とす

〔2〕気候

農業の経営は気候と密接の關係を有するを以て其地の気候状態を研究するは最も重要にして密陽附近に於ける気候に関する具体的揭示の資料なきを以て正確に示すことを得ざるも日本内地に産する各種作物の栽培に支障なく殊に多数の移住者既に数年來極めて粗雑なる小屋の中に老幼恙なく生活せるを見れば甚しき気候の激変なきもの、如し中央气象台調査に係る韓国氣象一斑に依れば極寒は一月にして釜山に於て最高気温七度最低気温零度、仁川に於て最高二度最低氷点下六度なり冬季に於ては北乃至北西の寒

風卓越し寒氣甚だし去れど滿州に低気圧の襲來せんとするものある毎に寒風全く止み反つて南東南西の風を起し一時気温の昇騰を來すを常とす故に冬季は寒暖の日相錯雜して韓国俚言に（三寒四温）の語あるは蓋し之れによるか

酷暑は八月にして釜山最高二十九度最低二十三度仁川最高二十九度最低二十度なり盛夏の候に於ては内陸は炎熱甚しく輕衫尚暑を感ずと雖も暑氣甚だ短く又沿海の地に於ては海風涼を送るを以て割合に苦熱を感せず之を要するに韓国の氣候は季節風の影響によりて夏季は南東の風卓越し暑氣強く湿润なれども冬季は北西の風流行し寒氣酷烈にして乾燥す然れども夏季は炎暑なるも期短く冬季は沍寒なるも天氣快晴の日多きを以て外□を為すに敢て困難を覚えず而して春秋は氣候和順にして年中最も爽快なる時期なりとす

〔3〕土質と耕地

極小部分に就て調査すれば種々の相違はあるも大体に於て土質は農業の行はれざる所なきのみならず概ね水田となし得るの状態なるにも拘らず灌漑の設備不完全にして多くは天水に依るが故に降雨あらざれば挿秧する事能はず挿秧後に於ても早魃に会ふ時は容易に凶作の不幸に陥る韓国の凶作の多分は旱害に起因するものにして政弊の久しき結果山河荒廢せるを以て早魃水害の多きは遺憾なり之れ日本の移住者が個人的経営と隆熙新政の普及と相待て漸次改良されつゝあり又一面より見れば之等諸害のある處は即ち韓国農業の有望なる所と信ず而して密陽附近の耕地は彼の密陽川兩翼の低平地にして密陽停車場に接したる東西約一里南北約三里の沃野を指すものにして耕地概測面積二千八百町歩内田千三百町歩畑千五百町歩を包有す此平野は多少洪水の被害はあるも密陽川沖積層たるを以て各種の風化物質を含有し概して土地肥沃なれば農業上最も好望なり韓国現時の状態に於ては一般に洪水の被害絶無なる地方は地味概ね瘠薄にして農業上の価値も亦劣等に属するを思へば現今多少の被害ある土地こそ他日人工の防止を待つて

美田と化す現に密陽に於て岡山県人松下定次郎氏は独力疏水工事を経営し耕地五百町歩を灌水する計画を立て明治三十七年工を起し昨四十年竣工して本年既に三百町歩に灌漑し尚進んで密陽川に堤防を築造するの設計を立て来年度に於て着手せんとし居れり

〔4〕農作物

密陽附近に栽培せらるゝ主なる作物の種類は水稲、陸稲、大麦、小麦、粟、大豆、小豆、大麻、煙草、唐辛子、蒜、菜、大根、瓜類、茄、葱、牛蒡、蕪菁、苜蓿

本年稲田の収穫は密陽附近に於て普通米一石五斗以上稀には二石位を得之れに反して挿秧時季を後れ又は水害を被りし處は意外の減収なり
蔬菜類は生育甚だ好く到る處優良のものを産す将来の発達想見せらる

煙草は密陽、三浪津、大邱の三ヶ所に於て本年作付二百町歩と称し居り昨年は非常の利益ありしも本年は作付反別の増加と風水害とにより収益昨年の如くならず

〔5〕果樹

苹果梨葡萄桃桜桃無花果杏李の類を主とす韓国は一般果樹栽培に天恵を有する邦土と謂はざるべからず京城を距る二里島嶼にある韓国園芸模範場長久次米氏の説を聞き且其園を觀るに日本に於てはガラス張の内に於て漸く栽培する欧州葡萄も彼の地に於ては容易に露地に於て美事に結実し洋梨の如き年数を要する果物も三四年にして能く結果し苹果の如きも実に良好の結果を奏せり全場長の説に韓国にては苹果の類剪定の要なし自然に放任せば此の如き枝端迄花芽を着し実に栽培容易にして速に多量の結実をなし其の品質又優等なり将来害虫の駆除だに行届かば日本内地は勿論浦塩清国シンガポール地方迄韓国果物を以て圧倒せん云々

〔6〕養蚕

韓国の氣候風土か養蚕に適當せることは何人

も首肯する處にして密陽地方の如き河流の沿岸に於て栽桑の好適地に富み農家の副業として未だ見るべきもの無き地方に於ては日本蚕種を輸入して飼育せば最も有望の事業と信ず

〔7〕家畜

現今韓国に在る家畜を見るに牛馬羊豚鶏鶩鶩の類にして就中牛馬豚鶏主として經濟上価値を有す去れど之れ等は皆品質劣等にして謂ふに足らざれば飼養者は宜しく良種を輸入すべきなり

〔8〕土地の選定と地価

土地選定に水田と畑地と何れに重きを置くかは個人々々の經營の目的に依りて決すべき問題なるを以て一概には言ひ難きも普通農業を目的として自作農を經營するには日本内地同様田畑共に配合よく所有するを安全なる策なりとす現今売買されつゝある土地の価格は地方により大差あるは無論一地方の内にては遠近肥瘠水旱被害の状況により非常の差あり密陽附近に就いて見るに一反歩につき

特等田百円迄上田五十円内外中田四十円内外下田二十円内外上畑五十円内外中畑三十五円内外下畑十五円内外

韓国も政治上社会上の改善によりて日一日と生命財産の安全を加へつゝあり農業の改良も不知不識の間に行はれつゝあり日本人の土地に放資するもの至る所に多くなり彼是雜多の原因により昨年は一昨年より今年より地価は騰貴せり密陽附近に於ても本年五月本県組合に於て二十三円九十銭位にて買収したる土地の附近か今日の相場は三十五円以上に騰貴せり尤も是等は特種の例なるが一般に昨年より今年に二割位は値に騰貴せる機になり

〔小括〕

以上之れを総ふるに韓国移住は氣候風土交通ともあまり困難はない殊に本県農業奨励組合事務所のある密陽附近は土地肥沃灌水の設備漸次行はれ築堤の計画も立てられ氣候も韓国中にて

は良き方なり交通の便は最もよく三浪津附近の大平野にても連絡せるを以て将来本県より続々移住者あるも当分収容に困難する患なし普通農作を主とするも果樹を本業とするも蔬菜に重きを置くも皆適地なるか安全の策は普通農を主とし果樹蔬菜養蚕養畜を副業とする方なり素より小作農は望み薄ければ必ず自作地を購入して永遠移住の決心を要す我国に比し有利の点は固定資本少額にて済むと生活費が低廉に上る故勤儉力行せば成効は期し易し資金は先づ四五百円携帯せば立派に自作農を営む事を得然かし土地の選定等を誤らざる様充分警戒を要すを以て移住希望者は自己の希望と経営方法等に関し本県庁内組合事業所又は密陽事業所に能く聞き合せ移住の時季移住地方其他注意事項の大体を承知して其上渡韓实地視察するを安全とす組合も喜んで質問に答へ又出来るだけ盡力すべし兎に角県の移住者は努めて組合を利用すべきなり已に此頃和気郡から二戸の移住者が密陽の事務所に仮泊して土地の買収に着手せんとせり新築事務所には附属の仮泊所も出来たるを以て今後の渡韓者は遠慮無く訪問して相当の便宜を求めらるべし (終)

資料Ⅱ 「明治四十三年度水稻試作成績」

〔まえがき〕

ここに掲ぐる者は岡山県韓国農業奨励組合にて移住民奨励の爲め施行したる試作の結果なり南韓の農業に志ある者の参考に資すべきものあらんか

試験地 慶尚南道密陽郡上南面両谷洛東江流域に属する第四紀新層地

耕種の梗概 水稻作各項に通ずる耕種の梗概左の如し

〔1〕 苗代

一、整地及施肥 苗代地は前年冬季耕鋤をなし霜雪に曝らし四月下旬再び耕鋤細碎し播種

の前々日整地施肥し灌水して柄振にて土面を搔均らして巾四尺の時代に一尺巾の通路を置き短冊形に播種するものとす

一、肥料 苗代一坪に付三十匁の硫酸安母尼亞二升の木灰、二十匁の荏油粕を施用せり

一、撰種 五月五日塩水撰とす

一、浸種 桶浸にして四斗樽に井水を汲み入れ選種後直ちに之を浸し毎日一回換水するものとす

一、播種 五月十二日に行ひ一坪五合の割合にて播下す

一、管理 播種後二日間は灌水の儘放置し其翌日より一週間は毎日午前十時より少時間床面の湿ふ位に排水して芽乾をなし其後は水深を二寸内外に保ち時々排水して苗の強剛を図り随時稗、雑草を抜き去るものとす

〔2〕 本田

一、整地及施肥 前年冬季耕鋤し挿秧四五日前施肥し灌水して更に耕鋤して代搔をなして田面を均平し六月二十日より移植す

一、肥料 総て原肥として施用す其種類及一反歩宛施用量左の如し (但し別掲肥料に関する試作地には本肥料を施用せず)

一、大豆十五貫 価額金一円十四銭六厘 過磷酸石灰四貫〇 価額金八十銭八厘

一、挿秧 六月二十日より始め一坪の株数五十六株にして一株の本数を八九本とし二寸内外の深に挿秧す

一、管理 灌水は常に二寸内外の深さに灌へ九月上旬より漸次落水 (開花二週間後) するものとす

除草は七月上旬より数日置きに八反摺にて二回手取にて二回をなす

一、收穫乾燥 收穫は九月十七日より始め刈取後田面に拡て陽乾すること三四日の後之を取り入る收穫には凡て日本製稻扱を用ふ

〔3〕 種類試験

日本種の優良と認めらるゝもの及当国在来種

を栽培し当地方最適の種類を選出せんとするものにして各区の栽培面積を一畝歩宛とす

- 第一区 高宮
- 第二区 農場の光
- 第三区 日の出
- 第四区 石白
- 第五区 出雲
- 第六区 早神力
- 第七区 多々租
- 第八区 趙同知
- 第九区 倭平

備考 右供試種類中高宮、農場の光、日の出、石白、出雲は、水原勸業模範場より早神力は大邱勸業模範場出張所より配付されたるものにして多々租趙同知、倭平は当地方韓人に就き採集したるものなり

播種は五月十二日にして本田移植は六月二十日之を施行せり生育の状況は日本種にて農場の光、早神が〔力〕の二種最も好況を呈し韓国種にては倭平比較的優良にして其他の種類は何れも分蘖殊に少きの感あり今各種の出穂成熟の時期及一反歩宛収量を挙げれば左〔表1〕の如し

表1 日韓水稻品種別の出穂期・成熟期・反当収量・莖長・莖量

種類名	出穂	成熟	収量		莖長	莖量
			玄米	粳米		
高宮	8月19日	9月30日	2.530	4.600	3.20	143.000
農場の光	9月3日	10月14日	2.928	5.320	3.40	156.000
日の出	8月18日	9月30日	2.338	4.240	3.20	114.900
石白	9月□日	10月12日	2.420	4.400	3.00	126.500
出雲	8月20日	10月1日	2.420	4.400	3.□□	109.500
早神力	9月6日	10月17日	2.866	5.210	3.20	151.000
多々租	8月25日	10月6日	2.372	5.900	3.00	114.400
趙同知	8月28日	10月9日	2.2□□	4.400	3.40	154.000
倭平	9月13日	10月□日	2.7□□	5.100	3.40	151.000

以上の成績に依り之を見るに日本種にては農場の光最も優良にして早神力之に次ぎ韓国在来種にては倭平を以て勝れたりとす而して早神力は小欠なるを以て本年の如く粳米を袋詰とし浦汐地方へ輸出さるゝ場合に於て稍欠くる所あり幸にして農場の光は粒形の大なるのみならず其収量も亦多きを以て将来に於て有望種と認定す

ることを得んか更に試作を継続して判定せん

〔4〕三要素適量試験

本試験の目的は当地方に於る三要素加給の割合を研究し経済的的配合率を判定せんとするにあり供試種類は早神力にして各五区の作付一畝歩宛とす（左記〔表2〕施用量は一反歩宛）

表2 肥料試験区別の反当施用量

区名	試験別区	窒素	磷酸	加里
第一区	無肥料区			
第二区	五割減区	1.250	.750	.500
第三区	標準区	2.500	1.500	1.000
第四区	五割増区	3.750	2.250	1.500

播種は五月十二日にして本田移植は六月二十日之を施行せり各区生育の状況を見るに五割増区先づ綠色を呈し標準区之に垂き七月中旬頃より五割増区の成績最も著しく標準区五割増

〔減〕区之に垂き無肥料区常に最も劣れり而して五割増区は出穂前後に至り全く倒臥し為めに米質を損すること夥多なりし今各区出穂成熟及一反歩宛の収量を表記すれば左〔表3〕の如し

表3 肥料試験区別の出穂期・成熟期・反当収量・藁長・藁量

試験区別	出穂	成熟	収量		藁長	藁量
			玄米	粳米		
無肥料区	9月4日	10月16日	石 2.3□□	石 4.□□□	尺 3.00	石 1□□.000
五割減区	9月6日	10月17日	2.8□□	5.1□□	3.□□	167.2□□
標準区	9月6日	10月17日	3.075	5.□90	3.□□	190.300
五割増区	9月8日	10月19日	3.146	5.720	3.40	191.800

依是觀之五割増区収量最も多く標準区五割減区之に垂き無肥料区最も劣れり雖然五割増区は所謂出来過の状況を呈し米質を損すること不尠を以て五割減区乃至六標準区を以て適量とせんか

〔5〕肥料比較試験

本試験の目的は各種肥料の施用が成熟期及収量に如何なる關係を有するかを査定し經濟的肥料の種類及施肥量を検定せんとするにあり各区の面積一畝歩宛にして早神力を用ふ

表4 肥料試験区別の肥料別の反当施用量・価額

区名	肥料種類	肥料用量	肥料価格
第一区	大豆	1反歩宛 20.000	円 1.528
	過磷酸石灰	5.000	1.010
第二区	大豆	10.000	.764
	過磷酸石灰	4.000	.808
第三区	大豆	10.000	.764
第四区	荏油粕	15.000	2.□□□
第五区	無機肥料	窒素 1.200	
		磷酸 1.000	
第六区	日本肥料有機第一号	2.000	.694
第七区	日本肥料有機第二号	2.000	.624

備考 過磷酸石灰は岡山市船着町日本製銅硫酸肥料株式会社製造に係る二〇%のものを用ひたり其加用量の多きに失するの感あるは過磷酸石灰の加用に依り結果に如何なる關係を及ぼすやを實驗せんとするにあり大豆の價格低廉なるは前年浸水地崖の下等を使用せるが為なり

播種は五月十二日にして本田移植は六月廿日 宛収量を掲ぐれば左〔表5〕の如し
之を施行せり今各区の出穂成熟の時期及一反歩

表5 肥料試験区別の施用量・出穂期・成熟期・反当収量・葉長・葉量

区名	肥料	出穂	成熟	収量		葉長	葉量
				玄米	粳米		
第一区	大豆 20 ^斤 過磷酸 5 ^斤	9月7日	9月10日	石	—	尺 3.30	斤 161.000
第二区	大豆 10 ^斤 過磷酸 4 ^斤	9月6日	9月10日	2.888	—	3.20	160.000
第三区	大豆 10 ^斤	9月7日	全	2.80□	—	3.00	1□□.000
第四区	荏油粕 15 ^斤	9月6日	全	2.860	—	3.20	160.000
第五区	無機肥料	9月6日	全	2.61□	—	3.20	137.000
第六区	日本肥料有機一号	9月6日	全	2.822	—	3.20	1□□.000
第七区	同上 二号	9月6日	全	2.640	—	3.00	146.000

以上の成績に依れば第一区大豆二十貫、過磷酸石灰五貫施用区最も優良にして第二区大豆十貫過磷酸石灰四貫区第四区荏油粕十五貫区、第三区大豆十貫区、之に垂き無機肥料と有機肥料との関係は第六区日本肥料有機第一号区優良にして第七区日本肥料有機第二号区之に垂き無機肥料最も劣れり而して之を全体より通観するに過磷酸石灰の加用は勿論必要なるも本試験の結果に依れば過磷酸石灰の加用は尚之を大に減するも収量に大差なきにあらざるか尚試験を継続して之等の疑問を解決せんとす

◎病虫害各項を通じてなし（をはり）